

青きみづうみ

久慈 こうこ 岩手

冬越しのネギを売りたる代金は今年のネギの種代とせむ  
吹き溜まる枯葉除けばあかがねの拳ふりあぐ芍薬の芽が  
雪消えの花壇に穴、穴、穴あくはネズミの仕業かチューリップ芽吹かず  
イヌノフグリ咲き広がれる草むらに見え隠れするつがひの山鳥  
放棄地に四月ひととき現るるイヌノフグリの青きみづうみ

大丈夫

渡辺 南央子 茨城

歌を詠むことにも身ぢから要る夜を半熟玉子のやうな月出づ  
身震ひをする水鳥に陽は射しててのひらほどの生命いのちかがやく  
雪に似たしろき花びら散るゆふべいつか遺族となる子らおもふ  
わがために嘆きくれたるいくたりが小人となりて枕辺に来る  
早咲きのさくらを散らす雨のあさ人にもわれにも言ふ「大丈夫」

ヴィシユヌ

中津川 勅 坐 埼玉

夏草の残れる庭に聞こえくる虫のバンドの秋の公演  
虫喰ひの赤いセーター瘦身に合へば素知らぬ顔で着こなす  
諾々と日・米・中・露の清濁をのむモデイ首相、ヴィシユヌだ彼は  
髭・鬚のインドの畏友チャーリーさん実はチラカマリ・ランガチャリユール氏  
やはらかな甘雨ふる朝いつせいに空へ咲ひらけりはくれんの花

太極拳

池田恭子 東京

中国の大地を駆ける野生馬の風を感じる野馬分鬃<sup>イェマイフエンジョン</sup>  
白鶴は羽を広げてはばたけり白鶴亮翅<sup>バイホウリョウシ</sup>ふうはり空へ  
雲掬ふ型は雲手<sup>ユンシヨウ</sup>白き絹横に流れて止まるに似たり  
身をかがめ海底針<sup>カイテイセン</sup>の型つくる水底深き宝探りて  
ゆつたりと進む套路<sup>タウロ</sup>の姿美し楊慧老師の太極拳は

テラスは舞台

小島静子 東京

とげの木と見まがふまでにびつしりと花芽とげ立つ夕山桜  
しやべる人よく笑ふ人ひとりづつをりて四人の席にぎはしき  
雑草といふ草はなし一言が記憶に残る昭和天皇  
風の日のテラスは舞台とりどりの落葉が風に吹かれて踊る  
通り雨すぎて陽の射すひとときを家路地の草すべてかがやく

春のドライブ

真島陽子\*新潟

たちあげたパソコンスリーブさせたまま子に誘われて春のドライブ  
木の芽摘む足もとに咲く筒花はうすむらさきのヤマエンゴサク  
へいじつのどこもかしこも人がいる労働者枠をこぼれてみれば  
わが影のマジメヨウコに指示をされやるべきことに立ち向かい  
退職の花束の薔薇挿し木して新芽むずりと芽吹くのを待つ

ほほゑむ時間

三浦陽子 長野

冷蔵庫に貼りついてゐるタイマーがゼロを並べて朝を待つてる  
地上からものみなちよつと浮いてゐる春を許さう春なんだから  
かなしみが色褪せるころカラフルなペンキの缶を買ひに行かうよ  
ドーナツを売る珈琲屋珈琲を売るドーナツ屋 あたらしい夏  
寝る時間食事の時間起きる時間午後二時ころはほほゑむ時間

ぶかりぶかりと

鷺巣錦司 静岡

春一番過ぎて明るいけさの空ぶかりぶかりと雲も散歩す  
昼寝より醒めて夜昼いづれかと認知の海にしばしただよふ  
受験の日遅刻しさうな夢に覚め動悸してをり春のあけほの  
延々と東京マラソン映りをり大空襲を知らぬ人たち  
天鷲<sup>ヒロ</sup>絨の夜会服着てだれを待つパンジー嬢に春の雨ふる

風のしつぽ

田中泉 大阪

窓側の席にうつりて春の日の自由席のやさしさに凭れる  
両口屋是清の（旅まくら）買ひ句点うちたり名古屋の旅に  
待つ人の列やはらかし三月の名古屋の地下のコメダ珈琲  
新任の衛生士へのいらだちが滲む歯科医のやや高い声  
キャンパスの端にとどきぬカステラの香りの春の風のしつぽは

一歩一歩

中西正博 兵庫

もう行けずなりたる吉野のみくまりのやしろにおはす西行座像  
若き日のハイキングノートにうちなびく春の吉野のコースをなぞる  
四月六日桜満開、学徒兵義兄乗る戦艦大和出撃せし日ぞ  
ただ生きるではなく善く生きることに ソクラテス言ひきさくら花散る  
両杖で痛みをこらへ一歩一歩これがただいま生きるといふこと

がらんどろ

鮎川 清 山口

わが家より見ゆる空地の大木の桜伐られて空がらんどろ  
移り来て六十年を馴染みたるソメイヨシノのにはかに失せぬ  
わが裡の標準木の失せたれば今年は出来ず開花宣言  
今生の花を見んとて杖曳きてよろけつつ行く栄山公園  
桜見てへ桜を見る会へ思ひ出づ政治不信の序章なりしか

母を呼ぶもの

浅野 千里 香川

ほの白きさくら日に日に増えてゆく里山 母を呼ぶもののあり  
日を追うて弱りゆく母おもむろにわれと別るる支度すること  
お守りのお不動さんに掌を置きて識のうちそと母眠りをり  
演出のごとしひつぎが斎場に入るやいなや花ふぶきして  
ほんぼりにあはくうかべる桜ばなそをたましひはめぐり愉しむ